

B.LEAGUE 2024-25シーズン（2024年度） クラブ決算概要発表資料

2025.10.14

AGENDA

- 01 クラブ決算概要発表の目的・前提
- 02 クラブ決算数値
- 03 夢のアリーナの誕生がクラブにもたらした効果

01.クラブ決算概要発表の目的・前提

クラブ決算概要発表の目的

- 情報を積極的に開示しスポーツ界全体の発展に役立てる
- クラブの透明性を高めステークホルダーからの信頼を向上させる
- 他クラブの状況を把握しクラブ経営の改善に利用する

本資料の前提

- 2024-25シーズン(2024年度)の決算情報であり、クラブから提出された計算書類に基づき作成
- 3月決算など決算期間とシーズンが同じでないクラブがある
【A東京・SR渋谷・川崎・三遠・三河・FE名古屋・名古屋D・大阪・島根・長崎・山形・東京U、立川・徳島】
- 表示項目はリーグの統一様式であり、クラブ決算書の勘定科目と異なることがあり、
また、端数調整の関係で合計数値等が一致しない箇所がある
- 例年は毎年11月頃に発表を行っていたが、本決算数値はB.革新のライセンスおよび入会審査において判定材料となることから、今後も10月末までに開催されるライセンス判定理事会より前に発表を行う予定
また、上記にあたって今後はB3クラブも対象となることから、今回の発表分よりB3クラブの内容も公表する
- なお、現B1～B3の区分は2024-25シーズンである
- 殊、本資料においては例年どおり原則B1・B2クラブのみに言及しておりB3クラブも含めたサマリ情報はP14にのみ記載

02.クラブ決算数値

2024年度決算実績

- 営業収入 : 651億円 (B1合計:525億円 B1平均 : 21.9億円 B2合計 : 126億円 B2平均 : 9.0億円)
 - 入場料収入昨対比 : **+33.0%** (B1平均 : +34.7% B2平均 : +22.0%) ※クラブ数B1 : 24、B2 : 14 (増減なし)
 - スポンサー収入昨対比 : **+9.9%** (B1平均 : +13.9% B2平均 : -2.4%) ※クラブ数B1 : 24、B2 : 14 (増減なし)
- 営業費用 : 643億円 (B1合計:515億円 B1平均 : 21.5億円 B2合計 : 128億円 B2平均 : 9.1億円)
- 赤字クラブ : **15クラブ** (B1:8クラブ B2:7クラブ) ※2023-24 : 5クラブ
- 債務超過クラブ : **0クラブ** ※2023-24 : 0クラブ

02-2 決算数値_B1・B2クラブ全体

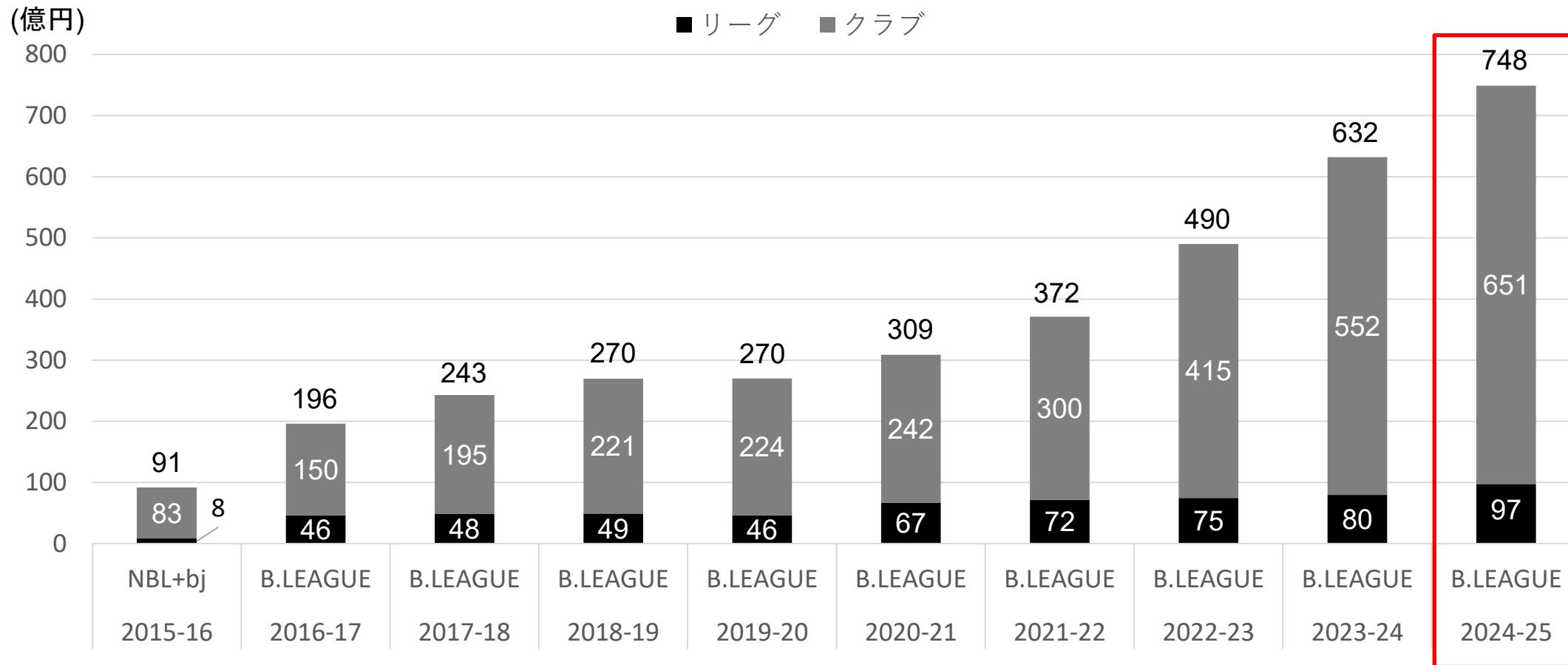
- 入場者数は昨期452万人に対しリーグ全体で**485万人**(昨対比+7.3%)
- 営業収入は昨期552億円に対しB1・B2クラブ全体で**651億円**(昨対比+17.9%)

		2021-22シーズン (2021年度) B1:22クラブ B2:14クラブ	2022-23シーズン (2022年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2023-24シーズン (2023年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2024-25シーズン (2024年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	昨対比
入場者数	全体	158万人	323万人	452万人	485万人	+7.3%
	B1	119万人	249万人	332万人	349万人	+4.9%
	B2	28万人	56万人	97万人	114万人	+17.8%
営業収入	全体	300億円	415億円	552億円	651億円	+17.9%
	B1	246億円	341億円	438億円	525億円	+19.9%
	B2	54億円	74億円	114億円	126億円	+10.4%
参考数値	BLG/Bクラブ 決算合計	372億円	490億円	632億円	748億円	-

※全体の入場者数にはALL-STAR GAMEやPOST SEASONを含む

02-3 決算数値_クラブ・リーグ決算推移

- クラブ営業収入が約650億円(651億円)と大きく伸長し、リーグとの合計では約750億円(748億円)となった



02-4 決算数値_B1・B2クラブ合計

- 営業収入は昨期552億円に対しB1・B2クラブ全体で**651億円**(昨対比+17.9%)
- 入場料収入が特に大きく伸び、昨対比で**33.0%増加**
- 営業費用も増加したが、昨期に続きB1・B2クラブ全体では黒字化を達成

(単位：百万円)

B1・B2クラブ合計		2021-22シーズン (2021年度) B1:22クラブ B2:14クラブ	2022-23シーズン (2022年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2023-24シーズン (2023年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2024-25シーズン (2024年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	昨対比
1	営業収入	29,962	41,536	55,240	65,138	+17.9%
2	入場料収入	4,620	7,500	10,862	14,443	+33.0%
3	スポンサー収入	17,403	23,758	30,102	33,079	+9.9%
4	その他	7,939	10,278	14,276	17,616	+23.4%
5	営業費用	31,546	44,026	53,845	64,337	+19.5%
6	トップチーム人件費	13,170	18,210	21,547	24,594	+14.1%
7	その他	18,376	25,816	32,298	39,743	+23.0%
8	営業利益 (▲損失)	▲1,584	▲2,490	1,395	801	-
9	当期純利益 (▲損失)	▲1,545	▲1,730	1,726	879	-

02-5 決算数値_B1クラブ合計 (B1:24クラブ)

- 営業収入は昨期438億円に対しB1クラブ全体で**525億円**(昨対比+19.9%)
- 営業収入に対するトップチーム人件費の割合は**38.1%となり若干減少**(昨期39.8%)
- 営業収入増加の大きな要因は入場料収入の増加

(単位：百万円)

B1クラブ合計		2021-22シーズン (2021年度) 22クラブ	2022-23シーズン (2022年度) 24クラブ	2023-24シーズン (2023年度) 24クラブ	2024-25シーズン (2024年度) 24クラブ	昨対比
1	営業収入	24,592	34,124	43,832	52,549	+19.9%
2	入場料収入	3,978	6,483	9,345	12,592	+34.7%
3	スポンサー収入	14,068	18,858	22,672	25,825	+13.9%
4	その他	6,546	8,783	11,815	14,132	+19.6%
5	営業費用	25,307	35,161	42,869	51,529	+20.2%
6	トップチーム人件費	10,813	14,703	17,448	20,005	+14.7%
7	その他	14,495	20,458	25,421	31,524	+24.0%
8	営業利益 (▲損失)	▲716	▲1,037	963	1,020	-
9	当期純利益 (▲損失)	▲688	▲833	1,158	1,191	-

02-6 決算数値_B2クラブ合計 (B2:14クラブ)

- 営業収入は昨期114億円に対しB2クラブ全体で**126億円**(昨対比+10.4%)
- 営業収入に対するトップチーム人件費の割合は**36.4%となり若干増加** (昨期35.9%)
- 営業収入増加の大きな要因は入場料収入の増加

(単位：百万円)

B2クラブ合計		2021-22シーズン (2021年度) 14クラブ	2022-23シーズン (2022年度) 14クラブ	2023-24シーズン (2023年度) 14クラブ	2024-25シーズン (2024年度) 14クラブ	昨対比
1	営業収入	5,370	7,412	11,408	12,589	+10.4%
2	入場料収入	642	1,017	1,517	1,851	+22.0%
3	スポンサー収入	3,335	4,900	7,430	7,254	▲2.4%
4	その他	1,393	1,495	2,461	3,484	+41.5%
5	営業費用	6,239	8,865	10,976	12,808	+16.7%
6	トップチーム人件費	2,357	3,507	4,099	4,588	+11.9%
7	その他	3,882	5,358	6,877	8,220	+19.5%
8	営業利益 (▲損失)	▲868	▲1,454	432	▲219	-
9	当期純利益 (▲損失)	▲857	▲897	568	▲312	-

02-7 決算数値_B1クラブ平均 (B1:24クラブ)

- 営業収入は昨期18.3億円に対しB1クラブ平均で**21.9億円**となり増加
- 入場料収入は昨対比で**34.7%増加**
- トップチーム人件費は平均**8.3億円**と増加傾向が続いている

(単位：百万円)

B1クラブ平均		2021-22シーズン (2021年度) 22クラブ	2022-23シーズン (2022年度) 24クラブ	2023-24シーズン (2023年度) 24クラブ	2024-25シーズン (2024年度) 24クラブ	昨対比
1	営業収入	1,118	1,422	1,826	2,190	+19.9%
2	入場料収入	181	270	389	525	+34.7%
3	スポンサー収入	639	786	945	1,076	+13.9%
4	その他	298	366	492	589	+19.6%
5	営業費用	1,150	1,465	1,786	2,147	+20.2%
6	トップチーム人件費	491	613	727	834	+14.7%
7	その他	659	852	1,059	1,313	+24.0%
8	営業利益 (▲ 損失)	▲ 33	▲ 43	40	43	-
9	当期純利益 (▲ 損失)	▲ 31	▲ 35	48	50	-

02-8 決算数値_B2クラブ平均 (B2:14クラブ)

- 営業収入は昨期8.1億円に対しB2クラブ平均で**9.0億円**となり増加
- 入場料収入は昨対比で**22.0%増加**
- トップチーム人件費は平均**3.3億円**と増加傾向が続いている

(単位：百万円)

B2クラブ平均		2021-22シーズン (2021年度) 14クラブ	2022-23シーズン (2022年度) 14クラブ	2023-24シーズン (2023年度) 14クラブ	2024-25シーズン (2024年度) 14クラブ	昨対比
1	営業収入	384	529	815	899	+10.4%
2	入場料収入	46	73	108	132	+22.0%
3	スポンサー収入	238	350	531	518	▲2.4%
4	その他	100	106	176	249	+41.5%
5	営業費用	446	633	784	915	+16.7%
6	トップチーム人件費	168	250	293	328	+11.9%
7	その他	277	383	491	587	+19.5%
8	営業利益 (▲損失)	▲62	▲104	31	▲16	-
9	当期純利益 (▲損失)	▲62	▲64	41	▲22	-

02-9 ライセンス課題_赤字クラブ・債務超過クラブ統括

- 赤字クラブ：2023-24シーズンの5クラブに対し15クラブとなり増加
- 債務超過クラブは該当なし

		2021-22シーズン (2021年度)		2022-23シーズン (2022年度)		2023-24シーズン (2023年度)		2024-25シーズン (2024年度)	
		数	クラブ名	数	クラブ名	数	クラブ名	数	クラブ名
赤字 クラブ	合計	20	—	20	—	5	—	15	—
	B1	10	茨城、群馬、川崎、新潟、富山、信州、三遠、滋賀、京都、大阪	11	仙台、秋田、茨城、SR渋谷、新潟、富山、信州、三遠、三河、FE名古屋、名古屋D	2	川崎、琉球	8	茨城、A東京、川崎、FE名古屋、滋賀、大阪、佐賀、長崎
	B2	10	青森、山形、福島、越谷、東京Z、奈良、香川、愛媛、佐賀、熊本	9	青森、山形、福島、越谷、神戸(※)、奈良、香川、長崎、熊本 ※2021年度以前は西宮と表示	3	岩手、A千葉、静岡	7	青森、山形、A千葉、神戸、奈良、愛媛、鹿児島
債務超過 クラブ	合計	15	—	6	—	0	—	0	—
	B1	7	群馬、横浜BC、新潟、富山、三遠、滋賀、京都	0	—	0	—	0	—
	B2	8	山形、福島、東京Z、奈良、香川、愛媛、佐賀、熊本	6	青森、山形、東京Z、奈良、香川、愛媛	0	—	0	—

参考) 決算数値_B1・B2・B3クラブ全体

- B3単体のレギュラーシーズンの入場者数は68万人(ポストシーズンを含めると73万人)
- 入場者数はB1・B2全体で485万人のため、B3も含めると**557万人**
- B3単体の営業収入は62億円。B1・B2・B3の合計が**713億円**のため、リーグも含めると**810億円**

		2021-22シーズン (2021年度) B1:22クラブ B2:14クラブ	2022-23シーズン (2022年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2023-24シーズン (2023年度) B1:24クラブ B2:14クラブ	2024-25シーズン (2024年度) B1:24クラブ B2:14クラブ B3:17クラブ
入場者数	全体	158万人	323万人	452万人	557万人
	B1	119万人	249万人	332万人	349万人
	B2	28万人	56万人	97万人	114万人
	B3	-	-	-	68万人
営業収入	全体	300億円	415億円	552億円	713億円
	B1	246億円	341億円	438億円	525億円
	B2	54億円	74億円	114億円	126億円
	B3	-	-	-	62億円
参考数値	BLG/ B1・B2・B3 決算合計	-	-	-	810億円

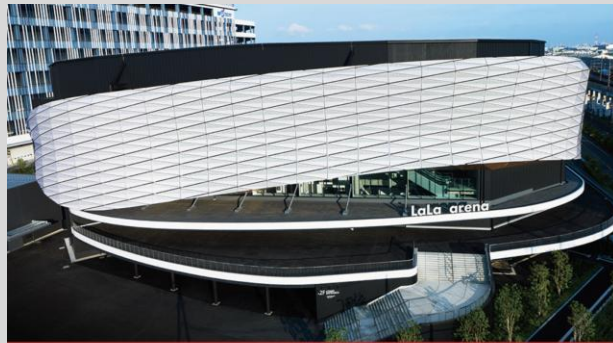
※全体の入場者数にはALL-STAR GAMEやPOST SEASONを含む

03.夢のアリーナの誕生がクラブにもたらした効果

2024-25シーズンにホームアリーナとして使用された夢のアリーナ

- 夢のアリーナは、長崎・千葉Jが加わった5クラブへ

2024年開業



LaLa arena TOKYO-BAY

千葉ジェッツ
開業時期：2024年5月
観客席数：10,652席



ハピネスアリーナ

長崎ヴェルカ
開業時期：2024年10月
観客席数：5,813席



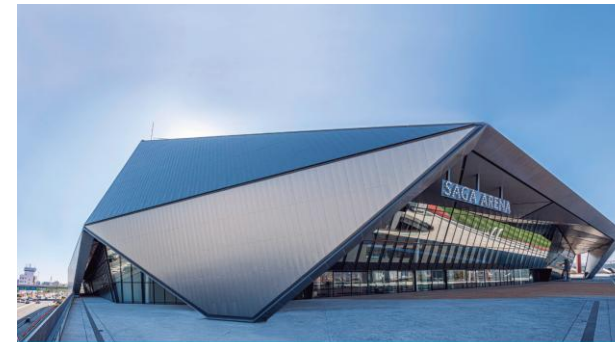
沖縄サントリーアリーナ

琉球ゴールデンキングス
開業時期：2021年4月
観客席数：9,104席



オープンハウスアリーナ太田

群馬クレインサンダーズ
開業時期：2023年4月
観客席数：5,027席



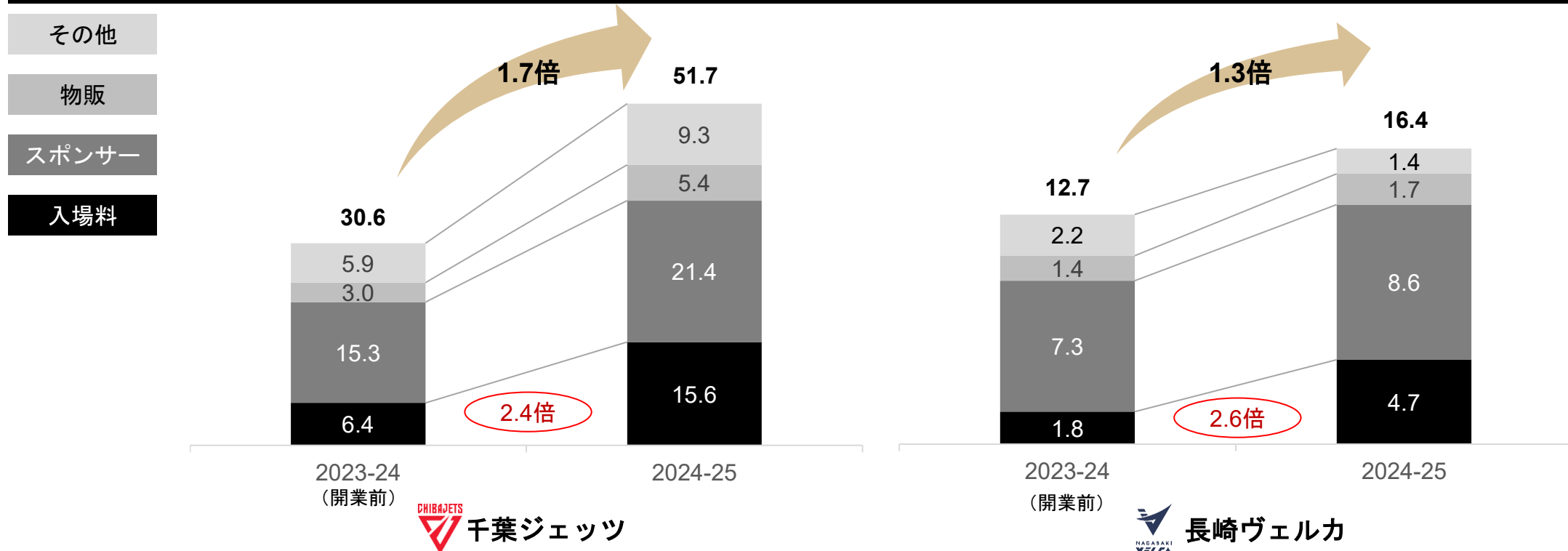
SAGAアリーナ

佐賀バルーンズ
開業時期：2023年5月
観客席数：8,610席

夢のアリーナの誕生による収入インパクト（単年比較）

- 営業収入の主要項目である入場料・スポンサー・物販収入すべてで大きく増収
特に、入場料収入においては昨対比で約2.5倍に増加
- これにより千葉JはBクラブで初めて50億円を突破し、クラブ単体での営業収入における過去最高を記録（参考：歴代最高は昨2023年度のA東京：32.2億円）

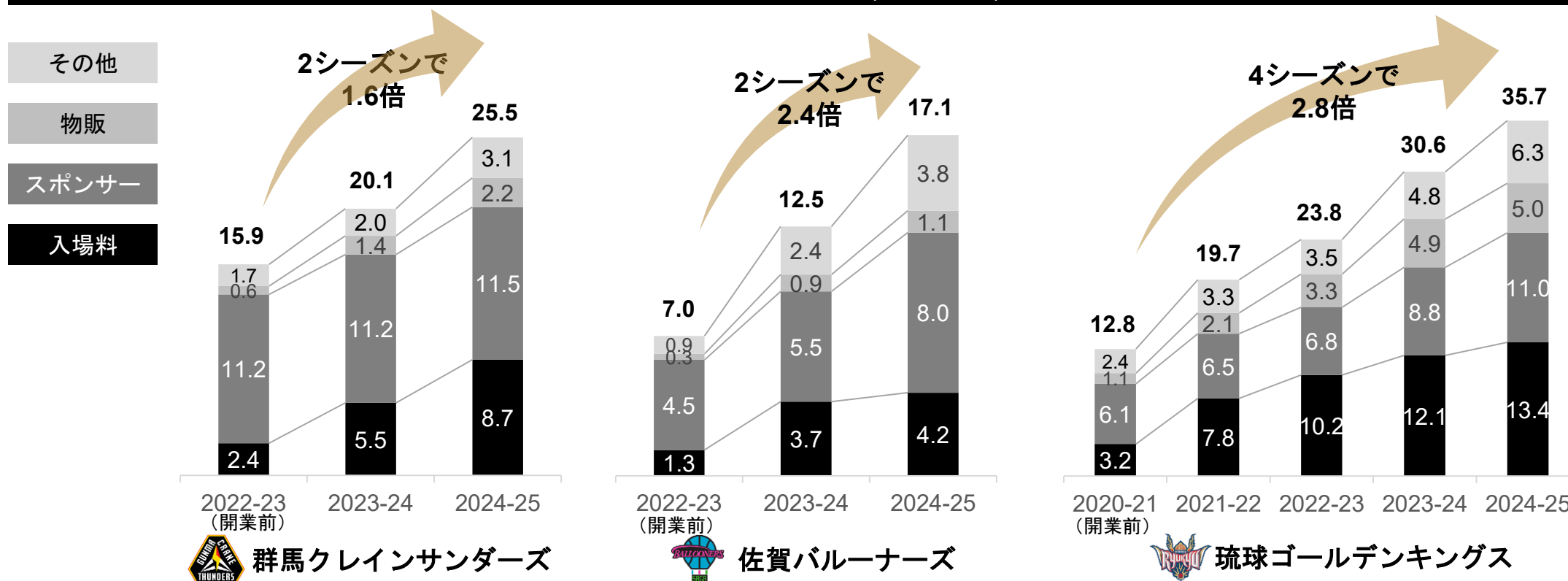
営業収入推移（単位：億円）



夢のアリーナの誕生による収入インパクト（複数年比較）

- 開業から2年目以降も、観戦体験向上によりチケットの価値が上がり、入場料収入が増加している
- 夢のアリーナによって協賛価値が上がり、スポンサー収入も継続的に増加している

営業収入推移 (単位：億円)



夢のアリーナはクラブが成長するキードライバー

夢のアリーナの誕生はクラブの成長に大きく寄与。直接的な入場者数・入場料収入の増加のみならず、スポンサー・物販等、クラブ全体の収益拡大においても貢献している。営業収入がBクラブ初の50億円を突破するクラブも誕生した。

開業から2年目以降も、各クラブが夢のアリーナを活用した経営努力を継続し、すべてのクラブで連続増収を達成しており、夢のアリーナは複数年にわたって成長をもたらす。

また、夢のアリーナを核としたまちづくりなど、社会的な効果も期待される。

2025-26シーズンにホームアリーナとして使用される夢のアリーナ

- 新たに神戸・仙台・名古屋D・宇都宮・A東京が加わり、夢のアリーナが10クラブへ

2025年開業



※Bプレミア基準を充足し、既に審査に合格しているホームアリーナ

「B.革新に向けた序章のシーズン」

新アリーナの開業や、既存のアリーナでのクラブの経営努力により、リーグ全体では入場者数は485万人（昨対比107%、33万人増）、クラブ営業収入合計は651億円（昨対比118%、99億円増）となり、いずれも過去最高となった。

一方で、多くのクラブが事業投資や集客への投資、B1昇格のための選手投資が行われたことから営業費用も増加しているが、各クラブがB.革新に向けた準備を行った結果と考えられる。

今後も夢のアリーナの誕生により収入を伸ばすクラブが増加し、また各クラブが行った投資が実を結び、B.革新開幕後に収入が伸びていくことで、さらなるリーグ全体の成長が見込まれる。